

読んでみよう 解いてみよう  
**さん太のワークシート**

西日本豪雨で甚大な被害を受けた倉敷市真備町地区で、住民の7割が今も当時を思い出して「つらい」と感じていることが山陽新聞社のアンケートで分かりました。記事を読み質問に答えましょう。

てい かく ねん  
**低学年も  
 チャレンジ!**

**Q1**

アンケートでは、住民の7割が今も豪雨を思い出して「つらい」と感じていることが分かりました。この数字を見て、皆さんはどのように思いましたか。

**Q2**

アンケートでは、豪雨による心身の不調についても尋ねています。心身の不調を今も感じる人は「とてもある」「少しある」を合わせて何%でしたか。記事やグラフを参考に答えましょう。

**Q3**

復興に関しては、順調に「進んでいる」「ある程度進んでいる」と答えたのが95.0%でした。復興で重視する分野で最も多かったのは何ですか。次の三つから正しい番号を選びましょう。

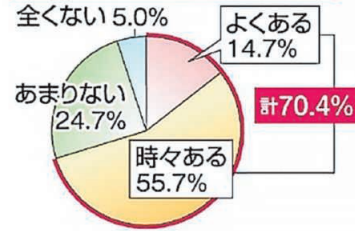
- ① 住まいや暮らし
- ② 地域経済
- ③ 災害の伝承

過去の問題は  
 こちらから▶▶

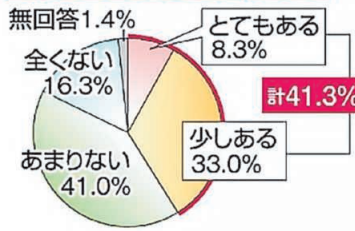


**真備町地区アンケート**

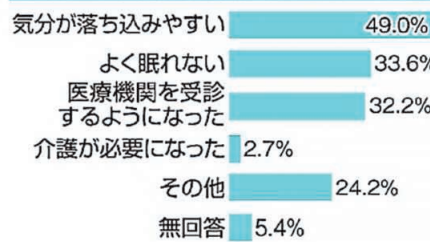
西日本豪雨のことを思い出して  
 つらくなることがあるか



西日本豪雨による心身の  
 不調が今もあると感じるか



心身への具体的な影響は (複数回答)



**「つらい」7割 心身不調4割**

結果を分析した兵庫県立  
 大大学院の阪本真由美教授  
 (被災者支援)は「町並みや  
 住民の暮らしは元に戻り  
 つつあるが、『心の復興』  
 にはまだ時間がかかること  
 が見て取れる」と指摘。「被  
 災者が抱えるトラウマ(心  
 的外傷)を共有できる場を  
 設けるなど、心のケアに継  
 続して取り組む必要がある  
 」としている。

2018年7月の西日本豪雨で甚大な被害を受けた倉敷市真備町地区で、住民の7割が今も当時を思い出して「つらい」と感じていることが、山陽新聞社のアンケート結果で分かった。心身の不調が続く人は4割に上り、豪雨から5年を経てもなお被災者らが心の傷を抱えている実態が浮き彫りとなった。専門家は中長期にわたる精神的ケアの必要性を訴える。(岸研一)

アンケートは5月6月、真備町地区で浸水エリアの居住者を中心に実施。男女361人から有効回答を得た。自宅が全半壊するなどした人の割合を示す被災率は95・3%だった。「豪雨を思い出して、つらくなることもあるか」との問いに、「よくある」「時々ある」は計70・4%を占めた。年代別では70代以上が73・7%、50〜60代が70・2%、30〜40代が63・6%と、高齢になるほど高い割合となる傾向を示した。

「豪雨を思い出して、つらくなることもあるか」との問いに、「よくある」「時々ある」は計70・4%を占めた。年代別では70代以上が73・7%、50〜60代が70・2%、30〜40代が63・6%と、高齢になるほど高い割合となる傾向を示した。

「豪雨を思い出して、つらくなることもあるか」との問いに、「よくある」「時々ある」は計70・4%を占めた。年代別では70代以上が73・7%、50〜60代が70・2%、30〜40代が63・6%と、高齢になるほど高い割合となる傾向を示した。



**被災者ら心の傷今も**

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。